

# 会議顛末書

						記 録 者	主 幹 岡野智倫	
供 覧	市 長	副 市 長	部 長	課 長	課長補佐	主 係	査 長	グループ員
件 名	令和6年8月定例庁議							
年 月 日	令和6年8月2日（金）							
時 間	午前9時～午前11時20分							
場 所	3階庁議室							
欠 席 者	なし							
内 容	<p>【審議事項】</p> <p>1 第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について(第2回子ども・子育て会議での協議事項)</p> <p style="padding-left: 20px;">資料に基づきこども家庭課より説明</p> <p>《主な意見・質疑等》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時保育とリフレッシュ保育、それから、令和8年度から実施することとされているこども誰でも通園制度、それぞれ要件が異なると思うが、サービス提供量の調整や住み分けをどのように検討していくのか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 一時保育、リフレッシュ保育については、現状のこれまでの利用実績を精査して、適切な量を確保できるように検討していきたい。また、こども誰でも通園制度については、今回の計画の中では具体のサービス提供量までは決めないが、保育課と調整をしながら実施に向けた検討を進めていく。</li> </ul> </li> <li>・ こども誰でも通園制度を実施する施設の検討はしているか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 民間の施設のご意見もお伺いしながら、公立、民間のどの施設での実施が可能か調整を図る。</li> </ul> </li> <li>・ 幼児保育について、子ども・子育て支援に関するニーズ調査などから、適正なサービス量が提供できているのか分析すること。</li> <li>・ 今回の計画策定に当たって、いくつかの団体などとヒアリングを実施してきているところであるが、様々な機会を活用し、さらなる意見の集約、現状と課題の把握に努めていただきたい。</li> </ul> <p>《協議結果》</p> <p style="padding-left: 20px;">了承</p> <p>2 保育士等増員配置事業の廃止と(仮称)保育利用定員等充足支援事業の創設について</p> <p style="padding-left: 20px;">資料に基づき保育課より説明</p> <p>《主な意見・質疑等》</p>							

- ・ 今回提案された新しい補助制度においては、年度の後半期にかけて保育利用希望者が増えていく状況から、保育利用定員に空きが発生しやすい年度の後半期について、後半期の保育需要を勘案した上で補助を行うこととしている。仮に、新しい制度を運用していく中で、年度の後半期と前半期で保育利用定員の空き状況の差が少なくなったときには、定員数の見直しを視野に入れた制度設計とすること。
- ・ 年度の後半期の保育利用定員の空き状況に応じた補助ということで、施設運営を考えるのであれば、補助対象人数を一律とすべきと考えるが、後半期の中でも4から6月と7から9月で補助対象人数を分けている理由を伺いたい。
  - ⇒ 保育需要率が4から6月、7から9月とで差がある状況の中で、月によって補助が足りない、補助が過度になってしまうといったことが想定されるため、3か月間の保育需要率を加味した制度設計とした。
  - 施設の状況をよく把握した上での運用に努めること。
- ・ 補助条件において、その他検討中との記載があるが、現段階で想定しているものはあるか。
  - ⇒ 今後、補助制度の要綱などを策定していく中で、今回提示した資料に記載の条件の他にも新たに条件を加える可能性もあるという意味合いで記載した。
- ・ 現在、全庁的に補助金の見直しを図っているところであり、新規の補助金についても、終期を設定するといった考え方などがある。補助金の見直しガイドラインを確認し、それを踏まえた制度設計とすること。
- ・ 資料において事業名称の候補をいくつか挙げているが、どういった補助なのか一目で分かるような名称とすること。また、今回提案された制度は、保育利用定員の空き状況に応じて補助をするという設計だが、根幹は施設における保育士等の数を充実させることが目的であることから、保育士確保といった文言を使用していきたい。
- ・ 今回の提案に係る施設への周知については、予算編成の時期を考慮し、早期の周知をしようとするのであれば、補助制度の見直しを進めている旨の説明とすること。

《協議結果》

見直しの方向性について了承。事業名称については、保育士確保といった文言を用いることにより、分かりやすい名称を検討すること。

3 議員報酬等の返還請求に係る訴訟の提起について

資料に基づき人事行政課より説明

《主な意見・質疑等》

- ・ 他自治体で類似の例はあるのか。
  - ⇒ 全額の返還請求が妥当とされた判例がある。
- ・ 相手方とは連絡などが取れているのか。
  - ⇒ 電話連絡をしても応答がない状況であるが、郵便物の配達確認は取れている。
- ・ 訴訟の提起を行う場合の弁護士費用について伺いたい。
  - ⇒ 着手金に加え、議員報酬等が返還された場合には、10%の成功報酬の支払いが必要となる予定である。

《協議結果》

了承

【報告事項】

4 公共用地等計画連絡調整会議の結果について

資料に基づき都市計画課より説明

特になし。

5 令和5年度決算の概要・健全化判断比率について

資料に基づき財政課より説明

特になし。

【行政経営推進本部】

6 令和5年度「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」に係る進捗状況評価について

資料に基づき企画課より説明

《主な意見・質疑等》

- ・ 今年度実施したまちづくり市民アンケートの回答率などについて伺いたい。
  - ⇒ アンケートを送付した方のうち、37.5%の方からの回答があった。無作為抽出によりアンケートを送付する方を選んでいるが、少子高齢化の影響もあってか、比較的年代が高い層からの回答が多かったことから、子育て施策や教育に関わる設問について、「わからない」という回答が前回調査と比べて増えた傾向がある。
  - ⇒ 子どもがいる世帯からの回答はどのくらいあったか。
  - ⇒ 回答をいただいた中で、49歳までの方に絞って分析したところ、537人から回答があり、前回の634人から6%ほど減少している。
  - ⇒ 子育てをしながら何項目も設問のあるアンケートに答えるのは難しいのではないか。本来はアンケートに書きたいことがあるが、時間的余裕がなく答えられないといった方がいて、子育て世代の意見がアンケートに反映されにくくなり、まちづくり市民アンケートの結果による重要業績成果指標(以下、「KPI」という。)の値が実態と乖離してしまっているのではないかと感じる。
  - ⇒ 子育て世代の声を多く拾うには、例えば、小中学校を經由した調査、保育所・幼稚園などを經由した調査、子ども・子育て支援に関するニーズ調査などが考えられる。しかしながら、どういった調査結果をKPIに設定するのかといった点については、前期基本計画の期間中に変更はできないことから、後期基本計画を策定する際の検討事項の1つと捉えている。
  
- ・ 子育て関連施策のKPIについて補足する。本日付議された子ども・子育て支援事業計画の策定の準備段階として、子ども・子育て支援に関するニーズ調査を今年の1月中旬から2月中旬までの1か月間、就学前児童がいる1,994世帯、小学生がいる1,000世帯の合計約3,000世帯に対して実施した。  
当該調査では、就学前児童がいる世帯からは40.7%、小学生がいる世帯からは40.5%の回答をいただいたところである。その回答の中では、政策の柱1、施策1のKPIの1つとしている「子育てしやすいまちであると感じる市民の割合」と同じ質問に対して、就学前児童がいる世帯の60.9%、小学生がいる世帯の63.0%から満足又はまあまあ満足との回答をいただき、政策の柱1、施策2のKPIの1つとしている「小中学校の教育内容・施設への満足度」と同じ質問に対して、就学前児童がいる世帯の34.8%、小学生がいる世帯の50.6%から満足又

はまあまあ満足との回答をいただいた。

今回の施策評価に係る KPI の多くは、全市民の中から無作為抽出をした方に対して実施したまちづくり市民アンケートの結果を基としているが、子ども・子育て支援に関するニーズ調査においては、まちづくり市民アンケートの結果よりも、子育て世代からの高い満足度が見受けられる。

- ⇒ まちづくり市民アンケートにおいて、49 歳までの回答者の中で高校生までの子どもがいる、又は同居している方に絞って分析をしたところ、「子育てしやすいまちであると感じる市民の割合」は 72%と全体と比べ高い数値であるものの、前回調査の 80.4%よりは減少、「小中学校の教育内容・施設への満足度」は 51.2%と全体と比べ高い数値であるものの、前回調査の 56.9%よりは減少という結果であった。

今後、外部評価機関である行政経営評価委員会において施策評価の内容を説明する際には、まちづくり市民アンケートの結果だけでなく、お話のあったアンケートの結果についても説明をした上で、当該委員会の委員よりご意見を伺う。

- ・ 主要事業としている事業がなくても、政策の柱 3、施策 4 は A 評価、政策の柱 4、施策 3 は C 評価、政策の柱 7、施策 2 は B 評価となっている。主要事業としている事業がない施策において評価を分けている視点について伺いたい。
  - ⇒ 例えば、政策の柱 3、施策 4 については、社会保障の分野であるため法に則った制度を適正に運用して行くことが求められ、主要事業としている事業はないものの、KPI の数値が上昇しているため A 評価とした。
- ・ C 評価としている政策の柱 5、施策 3 及び政策の柱 6、施策 2 について、主に KPI を基礎として評価を行ったという説明であったが、施策の中で取り上げている主要事業の指標においては目標を達成している事業が多い分野であるし、特に、政策の柱 6、施策 2 の移動環境については、令和 7 年度からの事業展開に向けて令和 5 年度に力を入れて取り組んだ分野でもあるため、評価と事業の成果の釣り合いが取れていないのではと感じているところである。
- ・ 政策の柱 6、施策 1 について、施策が目指す龍ヶ崎の姿・イメージに「牛久沼の活用に向けた動き」を掲げているが、牛久沼周辺首長会議や牛久沼活用推進協議会などの取組を記載するべきではないか。
  - ⇒ 牛久沼を地域資源と捉え、政策の柱 2、施策 3 の地域資源を活用した観光まちづくりの推進の主要事業の中において、牛久沼活用事業として掲載している。
- ・ 政策の柱 8、施策 6 について、施策評価シートには記載されていないが、都市整備部では、AI オンデマンド交通運行実証実験、道路・下水道台帳のデジタル化に向けた取組、LINE による道路・公園の不具合の通報など、電子自体の推進に向けた取組を実施しているため、行政経営評価委員会での説明においては、そういった点にも触れていただきたい。
- ・ 施策評価シートの主要事業の状況については、主要事業アクションプランに基づいて記載をしているところであるが、施策によっては主要事業がないところもあるため、その部分のシートの記載方法を検討すること。
- ・ 評価の理由について、例えば、政策の柱 1、施策 2 において、「保護者の期待と変革の過渡期にある学校とのギャップが影響していると考えられる。」とあるが、例えば、学校行事の減少、部活動の外部委託などの教職員の働き方改革について、一般の方への理解がまだ進んでいないことが起因しているのではないかといった要因も思料されるため、ギャップという表現が正しいのか。行政経営評価委員会に諮問する前に、施策評価シート内の評価の理由や今後の施策展開の考え方について、各部等の確認を受けること。
- ・ まちづくり市民アンケートの結果は真摯に受け止めなければならない。しかしな

	<p>がら、評価の視点を KPI に重きを置いているということで、適切に事業を行っていたり、注力して事業を展開している分野の評価が低いところがあるため、職員の士気に影響を及ぼさないかといった懸念を感じる。</p> <p>⇒ 今のご意見については、今会議の前に三次評価として実施した行政経営推進会議においても出た意見であり、今後開かれる行政経営評価委員会においても事業実施状況や施策の展開状況などを加味して評価してみてもどうか、といった意見が出た場合には、評価の視点、判断基準を見直すといった余地はあると考えている。今回は、客観的な視点を重視したため、KPI により重点を置いた評価としたところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ KPI を重視した評価ということで、厳しい評価結果となってしまったことは致し方ないところであるが、各施策に紐づくものとして、例えば、つぼみ園での特色ある取組や他の効果的な取組を知ってもらう機会を増やしていただきたい。</li> <li>⇒ つぼみ園での取組については、令和6年度主要事業アクションプランの政策の柱1、施策1において、「児童通所支援事業」として取り上げており、来年度の施策評価に反映されてくる。また、主要事業以外にも各施策に紐づく事業として取り組んでいるものについて、施策評価シート上での記載は難しいものの、行政経営評価委員会では、施策評価シートに記載していない取組についても説明を加えた上で、委員のご意見を伺いたいと考えている。</li> </ul> <p>【その他】</p> <p>特になし。</p>		
要措置事項			
情報公開	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">公開</div>	非公開（一部非公開を含む）とする理由	（龍ヶ崎市情報公開条例第9条 号該当）
		公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）	年 月 日